

神戸の中心点はこのあたりと、毎年神戸最高の土地評をされているのがこの“ドンク”附近。ドンクからセンター街が始まりちょうどトア・ロードの真中にもなる。神戸の中心点が洋菓子の店といふのも楽しいことだ。店のスタイルは開放的で明かるい。店主の藤井幸男氏は若くて羈氣のある神戸っ子。創業明治三十八年という老舗、現在の場所に開店したのは昭和二

十六年幸男氏はさしづめ洋菓子二代目というところ。一階は洋菓子、二階はロマンティックな喫茶店、向い側にハイティーン向のサウンドイッチバーなどと多彩な構えで、神戸っ子の人気を集めている。

「純粹のフランス菓子を創り出すため、帝国ホテルのベーカー部の主任を招いて、スタートしたんですが、幸いお客様から正統の味に好評をいただき、研究を重ねています。神戸は外人さんとの接触も多く

それに、阪神間は繊細な味覚をもつたすぐれた客層なので、菓子の味も洗練されて来るんですね。いまでは、独特的のフルーツ菓子パンでは、フロワッサン、ブリオッシュ、クッペなどにドンクの味として人気があるようです。工場も芦屋に建設中なんですが自家製造によつて、大メーカーにはない、個性のある洋菓子をつくつて神戸最高の味をつくり出したいと思つています」と藤井氏の洋菓子のフローティアぶりをうかがつた。

(小泉)

トア・ロード

フランス菓子の店

ドンク

一店紹介



(ロマンティックなムードの2階の喫茶店)



西中細耕三画場

△前回までのあらすじ▽

私は阪神日報の海運記者は、波止場で事故死したアンコの死因を追求した。アンコ吉田は砂糖を搔扒つてリンチを受けたのだった。

私は足で調べて歩いた。手配師の隆が、吉田の加害者にされた。眞実を追求する私の身边にも黒い翳が忍びよった。同時に何故か最初は記事にのり気だった編集局長の顔も曇った。そして来るべき時がきたのだ。

私が興港会の幹部から呼びだしを受けたのも、その後たった。興港会というのは第二次下請会社の組織している親睦団体である。

私は受付に迎えのものが名刺をだして「自動車を待たせてありますから」と云つてきたとき、「どうどうきたな」と思った。

社会部の元の仲間は「奴ら荒くれの若い者を使つていいから、社長とか専務といつても商社のそれとは違う。充分気をつけろよ」と心配してくれた。なかには留守を使えばよかつたのに、とか、危険だから行くなという者もあった。

「どこか知らんが、とにかく行つてくる。行つた処から電話だけはしておくよ。万一の場合、スクープできるようにな」

私は冗談のつもりで云つた。少くとも登録されたレッキとした会社の重役が暴力行為に及ぶとは考えられなかつた。だから私は仲間が心配するほど不安は抱いていなかつた。

迎えにきた若い者といつても二十七八才の男も丁重を極めた物腰だつた。自家用車で送り込まれた先は、神戸の山手にある花街でも一流の料亭であった。

玄関には角刈りにした小頭風の男が二人、私のかがとの減つた靴を押しのけた。お待ち兼ねでございます」と先に立つた。いささか時代がかつたヤクザの演出を思わせた。

床を背にして坐らせた。社長、重役、代表社員と肩書きのついた名刺を次々と渡された。どの手も、骨が太く大きかった。あいさつや言葉つきは、不気味なほど丁寧で、甘く見てやつてきた自分の不用意さがややまれた。恩田組の代表社員と名乗つた四十がらみの男は、この席を設けた首脳者なのであらう。

「今度は栄組の事から、いろいろとお世話になりまして」と静かに、何んでもない事を云われた時は、言葉の返しがなかった。居間だというのは、芸妓が座に入り、酒が廻りだした。私はいつまでたつても、呼びだしをかけた先方の本論に移らないので、焦った。

「今日は」

「まあゆっくり、酒でものみながら、とにかくいろいろお世話になつたお礼を兼ねましてね」

何度も相手の真意を引きだそつとするのだが、そんな調子でかわされた。

「わしら、腕一本でここまでしあがつてきた。いはば叩きあげですわ。そやさかいに口不足でしてな。早い話が浜には、浜の特殊事情という奴がある。例えはアンゴですな。アンゴだからといって、別に人間扱いにしていいわけではあらへん。然し、人間扱いにでけんやつもおる。積荷を抜く、船員の部屋から搔扒いをやる。そんな奴が時々おるよつて、会社の信用にかかるることもあるので時には、見せしめにオキウを据えることもありますがな」

「吉田もオキウでしたか」

「さいな。だがあれは手配師が自分の立場を考え過ぎて、ちとやり過ぎましたわい」

「吉田を殴つたのは隆だけでしたか」

「多分、そうでっしやろ、警察の方で調べても、そつたまんがな」

「いつるんですさかい」

「然し」

「まあ、むずかしい話はよして、今日は顔つなぎにワーツと行きましたよや。おたくさん若いが、頭もいいし、度胸もある。腕ふしはどうか知りまへんがな。実はな、おたくさんが来るか来ないか賭けとつたんや。わいは来ると思った。あれだけの記事を書く男やつたら、それだけの覚悟でやつとる。なあ、そうでっしやろ。やつぱり来よつた。いい度胸や。惚れたで。所で、事件はもう落着いたのやさかい。こん辺で手打ちといつちやなんだが

今後はわい等の言ふも書いて貰いたい。それは出来ないとなれば、この辺で、もう。記事はひっこめてもええと思ふんやが」

要するにニュースキャンペーンを中止してほしいという申入れなのだ。

「事件担当は社会部に廻わしました」

「というのは、関係ないという事かいな」

「関係はあります。ですが記事をだすことは新聞社の方針ですし」

「さよか。まあほどほどにな。浜には浜の特殊事情がありますかいな。進駐軍でも、こいつはどないにも出来んかったのやで。わいらが若い者を押えておきますさかい、その辺頭のええあんたさんの事や、よう考えてな」

「解りました。話はそれだけですか」

座は白切つた。私の直線的な喋り方は相手の気分を害したらしく、だが先方の方が一枚も一枚も上てであるた。

「堅い話は終つた。おい、つがんかい」

妓達が急にはしやぎだした。私はすぐ立ちたかつたが相手の要領を得た引とめにかかって夕方まで座にいた。

私は机に戻る前に整理部に寄つた。いつもの習慣で自分が書いた記事がどう扱われているのかを知るためにだつた。

私は机に戻る前に整理部に寄つた。いつもの習慣で自分が書いた記事がどう扱われているのかを知るためにだつた。

「きていない。あしたの朝刊の分だせ」

「ええ」

係りはちよつと云い難くそうに口ごもつた。私は「おかしいな。二時にちやんと部長の所に原稿をだしておいたんだが」

私は部長の所で原稿が押えられたことを直感した。興港会の幹部は私との妥協と合せて両面作戦の手を打つたのに違ひない。私はもう幾分興奮して、部長の所へ真直ぐに行つた。部長の机の上には、くせのあるもの字の原稿が直いしのつた。

「夕方の汽車で東京に出張したよ」

「くそ！さんざんハッパをかけておいて」

「こうなる結果は解っていたのだがな」

「部長、じあ局長をはじめ社の幹部は、港湾関係の庄

力に屈伏したわけですね」

「そうはつきり云えんが」

「はつきりして下さい。ここまで来てですよ。今更」

部長は領いた。この問題を局長に掛け合いに行つた時部長が示したあわれむような淋しそうな笑いが、口のあたりに漂つた。

「判るよ。その気持は。僕だって新聞記者のはしぐれだ。しかし客觀情勢つてものがある。その上だ二週間も毎日同じ事件を扱つてはタイミングが合わなくなるという事も考えなくてはね」

「局長の口実ですよ、そんなの。全港湾のストライキに利するからと云うのが、本音でしよう。いいじがありませんか。眞実は真実なんだから」

「まあ、そんな馳けだしみたいな事は云うなよ。あとは悪いようにしないから。」

私は原稿を欄むと、屑箱に叩き込んで席を蹴つた。まんまと局長に一杯喰わされたのだ。局長の言葉を素直に取つた私が馬鹿だつたかも知れない。

「だが、そんな事が許されてたまるか」と私は心の中で怒鳴つた。

私はその翌日から一週間、無断欠勤をして社にも記者クラブにも顔をださなかつた。

私が三田支局へ転勤命令を受けたのは、それから間もなくだつた。私は社をやめようかと思つた。だが部長に慰撫されて退職願いだけはださなかつた。

私の転勤を知つていた。私は自嘲するように記者クラブに挨拶に行くと、もう他の社の連中はみな

「やり過ぎて島流しさ、これからという所でね、これ

がおたくのような大新聞ならなあ」



「部長、ひどい、ひどすぎますよ」
「だがね、青木君、地方紙しあ一流中の一流紙であるK
紙さえ、どうやら雲行きがあやしくなつてきている。ま
して本社の力ではね。それに、局長の意見もあつて
「局長は何處ですか。」

私はしみじみそう思った。阪神日報では選挙がある度ごと金権候補のチヨウチン記事を書くのだ。そうしなければ社の經營さえ立たないので。そんな小づぽけな新聞

社が、大資本の三大倉庫・六大元請会社を相手にしてケンカをできない事は、最初から充分解っていたつもりだったが、やはり鉛のようなものが胸の底に重たく残った。「まあ有給休暇のつもりで、一年ばかり田舎でのんびりするよ。」

「然し勇敢にやってのけたな。あの記事が発端になつて、衆議院の港湾労働法審議会に持ち込まれたし、議員の実態調査になくなつたんだからな。もつてめいすべしだろう。」

「ああ無駄じあなかつたと思うがね」

私は笑つた。だが云い知れぬ淋しさが、自分の笑い声に煽られて燃え拡がつた。視線を窓外に移すと、波止場が見えた。波止場は何事もなかつたように、今日も動いている。出船なのであろうか、一きわ胸に応えるようなりするよ。」

汽笛が聞えてきた。

手配師の隆が証拠不充分で釈放されたと知ったのは、私が三田支局に移つてから暫くたつてからである。私は一切がまた元通りになつてしまつた事を、自分の敗北感と合せて知つた。

「アーサン、なんだいそれは」

年寄つた支局長が声をかけた。私は薄笑いを浮べてへラ竿をだしてみせた。

「こいつはいい竿だ。アーサンが釣りをすることは発見だな。」

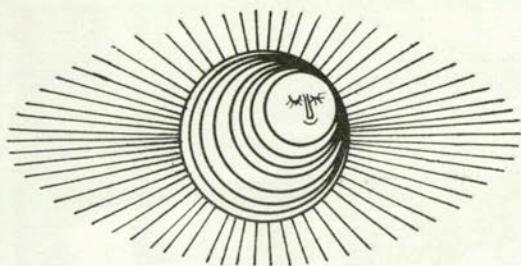
「これから、釣りにでも凝ろうかと思うんです。支局長、御指導を願います」

「ああ、その方はね。ここはいい池が多いから」

支局長は釣りの事になると、急に大声で喋りだした。

私はふと、いすれは自分もこの年寄つた支局長のようになるのかな、と思った。

—終—



暑中御見舞申し上げます

太陽製版KK

神戸市兵庫区淡町一丁目高架3号 / TEL 製版部 ⑤0558・0586
写植部 ⑥4416



暑中御見舞申し上げます

三急出版

TEL ⑥0897

◆読者サロン◆



THE SECOND COVER

表紙の女性一吉川鈴代さんは高校時代テニスの選手だったというだけに、水泳・卓球とスポーツならなんでもOKという近代的なお嬢さんです。いちばんやりたいことは『商業美術』の勉強とか。愛くるしい瞳と、チャーミングな話しぶりが印象的。松蔭女子学院出身（舞子ヴィラにて）

撮影 衣川 宏

○『神戸っ子』を手にして思いつしままお便りいたします。まず扉のポートレートは、とり扱い方に難があると思います。内容そのものには異議はございませんが被写体物の名を伏せ、アマチュアであつたとしてもカメラマンの名をむしる紹介し、またデータを掲げて下さる方がずっとオトナのやり方だと思いますが…。

苦言を提しましたが、これも御誌が神戸の文化面で何らかのプラスの面をうながすものであるように願がう気持ちからです。暑さに負けずがんばってください（生田区中山手丸林圭子）

○号を追って充実していく『神戸っ子』に目をみはる思いです。ただ企画がややボリントのすぐれたものも二、三あるようで残念な気がします。企画の個性によって読者

を固定させるのが定石ですから、その点、性格のはつきりしたもののが欲しいと思います。総花的に散漫になるより、シャープな紙面を読者は要求します。

△カメラ戯評▽井戸端ジョッキ▽リバーバイバル落語▽ユメを売る店▽コウベ・オール・ナイト・コース▽…大いに期待しています。（葺合区、有井基）

○いつものことながら貴誌の表紙のステキなには敬服させられます。七月の『布引の滝』は涼感があふれてよかったです。八月号の表紙が楽しみですね。阪本知事『旅さんまい』やはりうまいです。れんさいとか一こんどは何を書かれるか興味シンシンです。（生田区中山手丸林圭子）

○号を追って充実していく『神戸っ子』に目をみはる思いです。ただ企画がややボリントのすぐれたものも二、三あるようで残念な気がします。企画の個性によって読者

を固定させるのが定石ですから、その点、性格のはつきりしたもののが欲しいと思います。総花的に散漫になるより、シャープな紙面を読者は要求します。

△カメラ戯評▽井戸端ジョッキ▽リバーバイバル落語▽ユメを売る店▽コウベ・オール・ナイト・コース▽…大いに期待しています。（葺合区、有井基）

○連載「ここに神戸がある」の大ファンです。時代小説は好きじゃない私もいまではすっかり司馬先生のファン。ポートレートから受ける感じでは、先生はきっとやさしい方でしようね。いつまでも神戸を愛してくださいね。

（灘区、木村佳代子）

神戸っ子案内

☆月刊『神戸っ子』を毎月お読みになりたい方、又神戸を離れているお友達にプレゼントなさりたい方は編集室にお申込み下さい。6ヶ月分500円

（須磨区、岩村高子）

☆誌上の神戸銘店にはお客様へのサービスとして『神戸っ子』がおかれていています。☆本屋さんには『神戸っ子』がありま

す。文洋堂・国際会館1階、海文堂・元町3、漢口堂・ダイエー南

8月号の発行に色々とお世話いただいた方々

雄一子造ム英平夫楽勝渥二介郎七勝美男二雄城慧
重正真伊真ツ良芳喜勝孝健達芳高裏辰月
木並崎部根淵西磯林林本川川村中井西富井地崎杉
青榎岡岡小大川小小古阪白滝田田永中福松宮百森若



（おわび一七月号でレリーフ「日本画のホーピ山手義正」は山平の誤まりでした。また「涼線を求めて」の神戸電鉄、有馬温泉遊覧券三六〇円は二三〇円、大人三〇〇円は一六〇円。テント用具使用料二、三人用一八〇円は二〇〇円、五人用二五〇円は二八〇円、十人用四五〇円は五〇〇円、国鉄神戸一神鉄渋川経由一七〇円は一九〇円とそれぞれ訂正いたします）

・「神戸には『市民の志士』が多いな」と司馬先生はおっしゃいました。そうした『市民の志士』が戸の繁栄のために手をつなぎあつてくだされば、どんなにステキでしよう。「神戸つ子」は、そうしたことにして少しでも役立ちたいものです。

・長嶋選手のインタビューの受け答えのうまさに、今さらながら感心させられました。身体に似合わず、声はいがいと金属性、反対に本屋敷選手は低音でした。「シゲ」「キンちゃん」と言う仲だけにとても楽しい対談で、夜の更けのもの忘れるほど、やっぱりスポーツマンはいいですね。スカツとしてます。

・「波止場」は今月で終りました。細野耕三氏にはまたの機会に再登場していただきましょういろいろとお世話をまででした。なお来月号からは「波止場」にかわり、日常生活に密接した特集企画を計画をします。

（I）

しあわせをあなたの家庭に運ぶ
よい商店・よい商社のご招待

神戸日野自動車K・K

表2

マキシン

北村真珠K・K

ちんがら屋

田崎真珠K・K

紫田首吉祥服店

風月堂

マルゼン

元町バザー

ヒロタ

国際ロンタクトレンズ研究所

萬田屋

美容センター

兵庫ギヤイアントK・K

トアコートデリカテフセン

パウリスター

芸夢

未積製錠店

エスター・ニュートン

スギヤ

二恵洋服店

美田時計店

タジマ

神戸屋

シラサ

トレイ洋装店

サノヘ

元町電機

太田ベツ甲店

つばや

神戸シャツ

長崎菴本店

イクシマヤ

永田良介商店

千秋堂

淡洲堂

ドンキヤ

ユーハイムコンフェクト

大阪ガスK・K

表表

4 3 41 41 37 37 37 37 36 36 36 36 35 35 35 34 34 34 34 33 33 33 33 32 32 23 20 20 20 19 12 12 8 8 7 7 2 2

●本誌広告により広告主へ直接御注文やお問合せの際は「神戸っ子」広告による旨お書き添え下さい。

●広告主の住所不明な時は「神戸っ子」編集室にお問合せ下さい。お取次いたします。

●「神戸っ子」に広告掲載御希望の尚きは「神戸っ子」営業部宛御照会下さい。「神戸っ子」編集室

北欧の銘菓

クッキー

ピラミッドケーキ

バアウムクーフェン（ドイツ名）

ムンデッド

ユーハイム
コンフェクト

工 場 神戸市東灘区熊内町1丁目・②2336

神戸市三宮町2丁目・③4314

三 宮 店 神戸三宮生田筋(階上喫茶室)③0156・7343

芦 屋 店 省線芦屋駅前通り・芦屋5605

大 丸 店 神 戸 大 丸 地 階 銘 菓 街

阪 急 店 大 阪 阪 急 地 階 食 料 品 部



大阪ガス

月刊「神戸っ子」

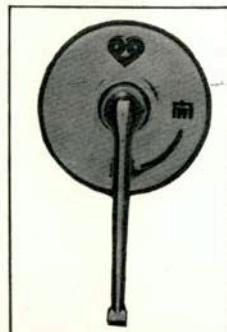
発行所／神戸市東区御幸通八丁目九ノ一
昭和三十六年八月十五日発行
毎月一回

神戸国際会館一階
編集／五十嵐恭子

TEL(2)730-3370
発行／小泉康夫
頒価七〇円
(送料10円)



湯かげんもコック一つで！



■つかりながら自由に湯かげんできる便利さ ■ススや灰がでずとても清潔 ■残り火・火の粉の心配がなく絶対に安全 ■わきあがりが早く経済的。

夢みるくらし
99 OSAKA GAS
ガス風呂

正価 14,300円から・10ヶ月払 15,000円から